

平成22年8月4日

(お知らせ)

消 防 局
(担当 庶務課 212-6629)

この夏、京都がORANGEに輝く！

第39回全国消防救助技術大会の開催について

～「KIZUNA（絆）」をスローガンに全国から救助の精鋭が集結～

全国から選抜された救助隊員が一堂に会し、競い合う「第39回全国消防救助技術大会」が、
「KIZUNA（絆）」をスローガンに、京都市において開催されますのでお知らせします。

「全国消防救助技術大会」は、災害時に安全・確実・迅速な救助活動を行うとともに、訓練を通じて他の模範となる救助隊員を育成することを目的に、昭和47年から毎年開催されてきました。

当日は、京都の特産を集めた物産展や子ども向けの楽しいイベントもあり、一般の方も自由に見学していただけますので、是非会場へお越しいたゞき、人命救助のプロの英姿をご覧ください。

1 開催日時

平成22年8月27日（金）午前8時50分～午後4時

2 開催場所

京都市消防活動総合センター（別紙地図参照）
（南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内94-4）

3 参加者

- ①出場隊員 約1,000人
- ②一般来場者 約17,000人
（昨年、横浜で実施された全国大会の実績）

4 訓練種目

16種目（陸上の部8種目、水上の部8種目）

※ 訓練の詳細は別紙参照



大会ポスター

5 次第

- (1) 開会式 午前8時50分～（開会宣言、隊員宣誓、オープニングセレモニー等）
- (2) 訓練 午前9時40分～（陸上8種目、水上8種目）
- (3) 閉会式 午後3時00分～（表彰、講評、閉会宣言等）

6 主催等

主催 財団法人全国消防協会
後援 総務省消防庁、全国消防長会
主管 京都市消防局

7 その他

- ・報道関係者の方は、京都市消防活動総合センター北東側に設置の受付にお越しください。
- ・報道関係者の方は、報道腕章を着用してください。

○ 市民参加イベントについて

当日は市民の皆様にも大会に参加して楽しんでいただけるよう以下のように様々なイベントを準備しています。是非御参加ください。

- ・ 新型起震車で地震体験
- ・ 消防士に変身コーナー
(子ども用防火衣, 救助服, 救急服の着装体験)
- ・ 子どものロープ渡り訓練
- ・ 子どもの救出訓練
(煙道を通してぬいぐるみを救出)
- ・ 子どもの放水体験
- ・ スタンプラリー (記念品も用意しています。)

救助服と救急服は
今回新たに作成しました。



救助服を着装した子どもたち

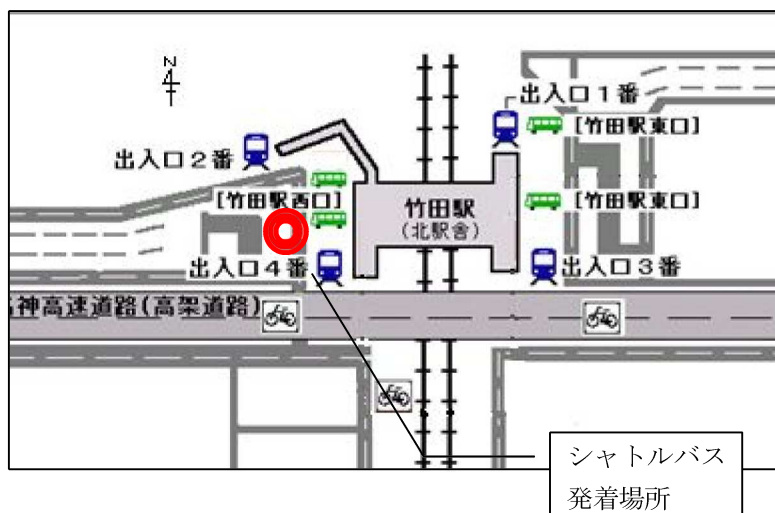
他にも楽しいイベントを企画しています！

○ 交通機関について

一般来場者用の駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮ください。

また、当日は、京都市営地下鉄「竹田駅」から京都市消防活動総合センターまでシャトルバスを運行致しますので御利用ください。

シャトルバス発着場所（竹田駅）付近図



会場付近図





大会シンボルマーク

第39回全国消防救助技術大会 陸上の部 訓練内容

はしご登はん

自己確保のための命綱を作成した後、垂直に立つはしごを15m登る訓練



ロープブリッジ渡過

水平に展張された20mのロープを、往路はセイラー渡りで、復路はモンキー渡りで渡過する訓練



ロープ応用登はん

登はん者と補助者が2人1組で協力し、塔上から垂れ下ったロープを、器材を使わずに15m登る訓練



ほふく救出

3人1組で1人が8mの煙道内を検索し、要救助者を屋外に救出した後、安全地点まで搬送する訓練



ロープブリッジ救出

4人1組で、2人が水平に展張されたロープにより対面する塔上へ進入し、要救助者をロープでけん引して救出し、脱出する訓練



引揚救助

5人1組で、2人が塔上から降下し、検索後、要救助者を塔上へ救出し、ロープ登はんにより脱出する訓練



障害突破

5人1組で一致協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「濃煙を通過する」の基本動作により5つの障害を突破する訓練



技術訓練

定められた手法、器材に縛られることなく、創意と工夫のもとで、より安全で的確、迅速に救助することを目的に行う訓練



第39回全国消防救助技術大会 水上の部 訓練内容



大会シンボルマーク

基本泳法

飛び込みで入水した後、常に顔が水面に出た状態で、基本的な2つの泳法で25mずつ泳ぐ訓練



複合検索

マスク、スノーケル、フィンを着装し、スノーケリングで障害物を突破しながら水中に沈められたリングを検索して、引き上げる訓練



溺者搬送

2人1組で、救助者が飛び込みで入水した後、要救助者を注視しながら近づき、確保した後、救助する訓練



人命救助

3人1組で、救助者がロープを掛けて要救助者の位置まで泳ぎ、確保し、再び水没しつつある要救助者を救助する訓練



水中結索

3人1組で水中の結索環に、第一泳者～第三泳者がそれぞれ異なるロープの結索を行う訓練



溺者救助

3人1組で浮環にロープを結着後、救助者が20m先の要救助者の位置まで浮環を搬送し、ロープをたぐり寄せて救助する訓練



水中検索救助

4人1組で水面と水中を検索し、水没している要救助者を発見して水面へ引き揚げた後、搬送し、救助する訓練



技術訓練

定められた手法、器材に縛られることなく、創意と工夫のもとで、より安全で的確、迅速に救助することを目的に行う訓練

